

監事の意見書

(平成30年度 監査報告から抜粋)

1 監査の概要

平成30年度決算については、平成30年度一般会計及び特別会計に関わる収支計算書及び財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書、財産目録（以下「決算報告書」という。）並びに証憑書類、元帳等帳簿その他関係書類等について、監事全員が分担の上、決算報告書の表示・開示の検討及び元帳等との照合、元帳等帳簿の閲覧・通査、残高証明書・預金通帳・契約書等の証憑との照合、商品・貯蔵品の棚卸立会及び現金の実査、役員及び職員の報告及び説明並びに監事からの質問等を実施し、監事相互に意見交換を行い、会計監査を実施した。

2 監査の結果

収支計算書及び財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書、財産目録については、適正に処理されているものと認められた。

3 意見

- (1) 最新の公益法人会計基準との整合を図ることを目的とした会計規則等の一部改正については、基本的な対応は完了している。今後、会計規則等に基づく実務が進められることから、適宜見直しが必要となる可能性があること及び公益法人会計基準等の更なる改正も考えられることから、的確に改正作業を行う体制を構築する必要がある。
- (2) 関連当事者との取引については、定期的に取り引実績表の作成及び決算書等入手し、取引内容の確認をすることに留意が必要である。

平成31年4月25日

日本土地家屋調査士会連合会

監事 加藤 幸男

監事 針本 久則

監事 新村 実